

石油に関する意見交換会を開催しました

東日本支部 神奈川分科会との意見交換会

日時	2015年12月21日(土) 16:00~18:00		
会場	神奈川県民センター		
参加者	NACS 東日本支部神奈川分科会	男性 11名	女性 4名
	石油連盟:	1名	環境委員会: 2名

神奈川県は京浜工業地帯を擁していること、また首都圏直下地震の報道などもあり、分科会として「防災・減災」をテーマに活動していることから、有事の際の「備え」に関心が高く、今回の意見交換会には多くの分科会メンバーが出席した。

石油連盟・橋爪氏からは、3.11 時、備蓄はあったにもかかわらず被災地に届けるルートが無く、インフラとしての脆弱さを痛感したこと、そのために業界としてロジスティックにおけるソフト・ハード両面からの対策を検討しているとの話があった。また政府と連携し、緊急要請に応える体制作りや、石油コンビナートの液状化、護岸の崩落防止にむけた大規模工事への取り組み、政府の首都圏直下地震の想定へも対応を図っていく等、防災の観点からの情報提供があった。

参加者からは、首都圏直下地震の際、ロジスティック面での制約の中でどのような対応を考えているのか、また災害に備えて町内会等でガソリン・灯油の備蓄は可能か、石油利用の機器が消費者には見つけにくい等の質問があった。

今回は「防災」「備え」をキーワードに、活発な質問・意見交換が行われ、分科会の研究に有益な情報提供もあり、充実した2時間となった。